

## 篠笛の奏法に関する一考察

—古典調三管等、邦楽調、ドレミ調の音律を中心に—

我妻 琴休(篠笛演奏家)

古典調三管(神楽笛調・龍笛調・高麗笛調)の篠笛でもドレミ調篠笛と同じ様に現代の歌曲を吹く事ができるという仮説のもとに、以下の検証をしました。

1、古典調三管を邦楽調篠笛に合わせられる根拠。

1—1、阿部季尚の『樂家録』より古典調三管の音律を、五世福原百之助の『黒美寿』より邦楽調篠笛の調律法と音律とを、対照させました。両方とも日本十二律を基音としているので、音高が合わせやすく、音程差を調律して古典調三管で邦楽調を吹ける事を示しました。又、その時の奏法を表示しました。

1—2、邦楽調篠笛は日本十二律を基音としている三味線と合奏できました。これは、三味線と合奏している琴や尺八との合奏も出来る事を含みます。

2、邦楽調をドレミ調篠笛に合わせられる根拠。

2—1、日本十二律の律名と、対応する洋楽平均律の音名とに周波数の差異があります。この差でも、邦楽調が対応するドレミ調の音名の音として聴こえるか、を検証する為、各七孔の音高を、周波数弁別閾の測定値で検討しました。この結果、各七孔の内二つの孔で同音として聴こえ、五つの孔で洋楽平均律の方が邦楽調より数Hz高い事が分かりました。しかし奏法により音高が合わせられる事を提示しました。

2—2、邦楽調と石高琴風の『しの笛の吹き方』よりドレミ調とを対照させて各七孔の音律が形態上同じである事を示しました。これにより、邦楽調でもドレミ調で吹く事が出来る事を図示しました。

3、古典調三管をドレミ調に合わせられる根拠。

1—1、項と2—1、項の説明より、古典調三管でも音高の面でドレミ調に合わせられる事を述べました。この項では、古典調三管等でドレミ調と同じ様に吹く為の音程を運指で示しました。

以上より、理論的にも、奏法上の技能においても古典調三管等で、現代の歌曲を吹く事が出来るという事を検証し提出しました。

因みに、八本調子六孔の神楽笛調篠笛で、ド、レ、ミ、ファ、ソ、ラ、シ、ド、が吹けたことも検証しました。